

深化！進化！真価！

輝く燕



6月14日、令和4年第2回燕市議会定例会初日に行われた鈴木市長の所信表明。市長4期目に当たっての市政運営に対する基本的な考え方を述べました。

はじめに

令和4年第2回燕市議会定例会にあたり、所信表明の機会をいただき、ありがとうございます。4期目の市政運営に臨むにあたり、私の基本的な考え方を述べさせていただきます。議員各位をはじめ広く市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私は、去る4月10日に執行された燕市長選挙の結果、引き続き市政を担当させていただくこととなりました。

4期目となりますと一般的には多選の弊害が指摘されるところであります。決してそのような状況にならないよう、初心を忘れず、課せられた使命の大きさと職責の重さを厳粛に受け止め、市民の皆様の声に謙虚に耳を傾けながら、燕市政発展のために全力を尽くしていくことを、まずもってここにお願い申し上げます。

目指す都市像

燕市長に就任して以来3期12年、私が一貫して目指してきた都市像は、「日本一輝いているまち・燕市」でした。それは、

村食堂に金属洋食器が採用されたりと、燕市の名を全国に発信することもできました。

ここ数年、「燕市の良い話題がマスコミに数多く取り上げられるようになったね。嬉しい、誇りに思うよ」という言葉をよくいただきます。

また、昨年実施した市民意識調査では、37施策のうち約8割にあたる29項目の満足度が上昇し、本市を「住みやすい」と回答した人は89・4%、「これからも住み続けたい」と回答した人は85・8%と、いずれも過去最高となりました。

私としては、これまでの地方創生に関する施策が実を結びつつあり、また新型コロナウイルス対策「フェニックス11+」に一定の評価をいただいた結果ではないかと受け止めておりますが、これもひとえに、市民および市議会議員の皆様のご理解・ご支援の賜物であり、心から感謝を申し上げます。次第であります。

このように、良い方向で動いている燕市政を停滞、後退させてはいけません。私は、引き続き市政運営の先頭に立って、「日本一輝いているまち・燕市」を市民の皆様と一緒に築いていく決意を新たにしているところであります。

3期12年を振り返って

そのため、1期目においては、「燕はひとつ」を合言葉に、真の合併効果を目指して新生燕市の一体感の醸成に努めるとともに、産業の振興、教育・子育て環境の整備、医療福祉の充実などの課題に対し、ユニークで先進的なアイデアや工夫を加えながら積極的に取り組んでまいりました。

2期目においては、全国に先駆けて人口減少対策を明確に打ち出し、「燕よ、ひかれ」というスローガンの下、①定住人口、②活動人口、③交流・応援(燕)人口という「3つの人口増戦略」を柱とした第2次燕市総合計画を策定し、人口減少に歯止めをかけ、地域の活力を維持・発展させていく施策を展開してきました。

3期目では、「やるぞ！燕進め！未来へ」をスローガンに掲げ、人口減少社会への対応を中心とした「地方創生」を推進するとともに、行財政改革や土地利用の制約の解消など難しい課題にも挑戦し、次なる飛躍のための基盤づくりに取り組み施策をスタートさせました。

途中、折り返しの令和2年になると、新型コロナウイルス対策ということまで経験したことのない新たな課

●幾度もの経済危機を乗り越え、伝統技術と先端産業が融合する産業のまち燕

●子どもたちがスポーツや文化活動の全国大会で素晴らしい活躍をする燕

●市民活動が活発で、一人ひとりの笑顔が輝いているまち燕

●各界でグローバルに活躍する人材を多数輩出する教育のまち燕

●地方創生の旗手として、独自アイデアの施策をどんどん打ち出すまち燕

というふうな、産業、教育、スポーツ、福祉、環境などさまざまな分野で、市民活動や企業活動が活発に行われ、全国の人から「やるね！燕」、「凄いな！燕」と注目を浴びることにより、市民の皆様、とりわけ子どもたちが、ふるさとへの誇りと愛着、未来への夢や希望を持てるまちを実現することです。



世界中のオナー選手村食堂に採用され、世界初の「おもてしカトラリー」

また、人気テレビドラマのロケ地選ばれたり、新型コロナウイルス禍で帰省できない学生にふるさとからの支援物資を贈って注目されたり、東京オリンピック・パラリンピックの選手